

## 管内小中学校研究主任研修会

平成26年度学校教育指導指針P7に、学力向上における「課題克服のための重点方策及び具体項目」が示されています。重点方策である、ア 明確な学習課題の設定と児童生徒の定着の把握、イ 授業改善・学力向上に学校全体で取り組むシステムづくり、ウ 県学調・全国学調等の諸調査を学力向上の研修機会として活用（具体項目については指導指針で確認願います）の3点を受け、今年度は2つの柱を意識して研修会を行いました。研究主任としてこれまでの取組を振り返るとともに、今後に生かす視点で活発な意見交換がなされました。

### 研究主任研の柱①

### 学力向上・わかる授業・授業改善

#### 学力向上の取組について(実践発表より)

2つの学校より、実践発表をいただきました。

#### 《奥州市立真城小学校 高橋 佳文 先生》

- ★ 昨年度の学校公開において、子どもに付けたい力を明確にしてゴールをはっきりさせること、モデルを示す等細かい手立てを組み、学校体制で一体となって行うことを意識して取り組んだ。
- ★ 現職教育や個人研究を大切に考え、教師個人の力量を高めていくことも必要であり、それが人材育成につながっていく。
- ★ 授業力の向上、授業改善の視点を研究主任として意識している。

#### 《一関市立千厩中学校 佐々木 芳美 先生》

- ★ 岩手県の考えや取組を校内研究に取り入れ、全職員で取り組んでいくために、県や事務所の研修会の内容を学校の運営計画の中に位置付けている。
- ★ 活用を意識した学習活動を通して、生徒に基礎・基本を身に付けるため、各教科における活用の捉えを職員間で共通理解している。
- ★ 生徒のための研究となるよう、PDCAサイクルの中で主題や研究内容を見直している。

#### 《研究協議における各グループのキーワード》

- ・ 学校全体での共通理解
- ・ モデルノート
- ・ 学び合いシート
- ・ 表現形式の変換
- ・ 言語活動の取り入れ方
- ・ 研究主任としての悩み
- ・ 付けたい力の明確化
- ・ 授業力アップ週間
- ・ 日々の授業実践
- ・ 自己評価・相互評価
- ・ 情報収集・情報発信
- ・ 他教科への取組
- ・ 系統性
- ・ 諸調査のPDCAサイクル化
- ・ 学習意欲
- ・ 人的配置
- ・ 教師の意識
- ・ 分析
- ・ 小中連携

#### ＜研修者の感想から＞

- 授業改善について、学校全体で取り組むことが大切と感じた。主題研究の教科だけでなく、全教科・領域でわかる授業を実践していくために、研究通信等で、授業のポイントを伝えていきたいと思いました。
- 実践発表は発表者の先生の研究主任としてのリーダーシップ・熱意を感じ、刺激を受けました。

### 研究主任研の柱②

### 「調査結果活用レポート」の活用

#### 選択研修

#### 講義B 学力調査の結果を生かした取組について

- ◆ 取組内容を明確にし、全職員で共有化を図る。  
データ分析は様々な角度から  
取組は具体的に、シンプルに
- ◆ 取組のPDCAサイクル化  
研究主任としての役割  
意図的な投げかけ



#### 分析スキルの向上

- 【例】 ヒストグラムによる集団の推移  
箱ひげ図による学年・学級集団の分析  
小問別正答率から見る観点別・領域別分析  
質問紙調査の状況との関連  
同一学年の経年比較  
全国学調と県学調との比較

点数や数値だけを見るのではなく、そこから見られる個の実態を捉えることが大切です。成果があった部分を個々に認め意欲の充足を図るとともに、一律ではないつまずきの原因を捉えることが効果的な指導につながります。



#### この他にも・・・

新任の研究主任さん等を対象に「基本的な研究の進め方と研究主任の役割」についての講義Aと、「特別に支援を要する児童生徒の学習指導について～通常学級における支援の在り方～」についての講義Cが行われ、個々の参加者が抱えている課題についても考えることができました。